



# YMCA NEWS

## 金沢青年

HP版 No.3 (2005年1月号)

発行所: 金沢キリスト教青年会 〒920-0998 金沢市里見町 44-1 里見タウンハイツ 201  
TEL/FAX(076)221-5398 <http://www.ys-chubu.jp/kanazawaymca/>

### 戦後日本の60年還暦

理事長 井上 良彦

ことしは、1945年の昭和20年から60年経った、干支で云えば乙酉(きのととり)の還暦にあたる。

あれは終戦の年であった。3月の東京・大阪の大空襲、4～6月の沖縄戦、7月にはポツダム宣言、8月はソ連の侵攻、広島・長崎に原爆投下、「万世ノタメニ太平洋ヲヒラク」と終戦の詔勅、9月に占領軍の進駐(以来7年余の占領行政)。国中が焦土と化し、飢餓と虚脱感に国民は打ちひしがれた。

あれから60年である。

60年といえば三世代がふくまれる。オーストリアの生物学者ローレンツが「刷り込み」理論を発表して以来、この言葉はひろく共有されている。私は我ら三世代にほどこされた刷り込みについて考えさせられている。

第一は、平和愛好。あれほどの痛烈な戦禍を蒙ったのだから無理はないが、**peace-loving sentiment**から抜け出られない。**Peace-making mastery**(平和をつくり出す実力)がほんとは必要。

第二は、物的享楽主義。飢餓と窮乏への恐怖から、ひたすら経済繁栄を追求した。精神や徳性の練磨は放擲され、日本人はむしろ貧しくなった。

第三は、「私」の肥大化。私の字はノギヘン(農産所有物をあらわす)に、カコムというツクリを配している。要するに、エゴイズムは猛々しく肥大したけれども、無私の精神・奉仕のころは消えてしまった。

新年は、このように三世代に渡ってインプリントされた精神からの「出エジプト」が敢行されねばならない。さいわいなる還暦である。新しい日本人として為すべきことがある。上記の三つの刷り込みを刷り直す(刷新と言っていい)ためには、わがYMCAの精神と運動がふさわしいのであるまいか。



## 《活動報告》

### みどりっ子キャンプ in 石川県森林公園



2004年8月2日猛暑の中、金沢YMCAが再始動してから初めてのデイキャンプを行いました。プログラムはカレーライス作りにアスレチック遊び、昆虫展見学でした。

カレーライス作りでは恐る恐る包丁を握っている子、思い切りよく包丁を振り下ろしている子など様々でしたが、みんなで力を合わせてとってもおいしいカレーになりました。午後はリーダーの方がくたくたになるくらいアスレチックなどでみんな元気に遊んでいました。昆虫展では外国のカブトムシやクワガタを目の前にみんなの目がキラキラと輝いていました。

はじめの頃は口数も少なく、緊張した表情だった子供たちも、帰る頃には楽しい会話ととてもいい笑顔を見せてくれました。

### もみじっ子キャンプ in パーク獅子吼

2004年10月9日、この日は台風の接近で雨の降る中でのキャンプとなりました。

お昼には自分たちで焼きそばを作りました。にんじんを薄く切るのが難しく、にんじんの存在感がたっぷりの焼きそばになりました。午後には写生大会を行いました。外国の獅子や動物の剥製などをみんな真剣に描いていました。おやつにはほかほかの焼き芋を食べ、少し冷えた身体も暖まりました。帰り際には、みんなの願いが届いたのか雨が上がり、外で鬼ごっこをしたりして遊ぶことができました。



後日、楽しかったと、メンバーからリーダーに手紙が届きました。うれしかったよ。みんな、また一緒に遊ぼうね。

## 中越地震街頭募金 ご協力のお礼



街頭募金をすると声をかけたところ、9名の子供たちと4名のYMCA ボランティアの方が集まってくれ、2004年11月13日に香林坊大和前にて街頭募金を行いました。約1時間の募金活動でしたが35,451円もの募金が集まり、日本YMCA同盟あてに送金しました。

街頭で呼びかけてくださったみなさん、また、募金に協力してくださったみなさん本当にありがとうございました。

## ながまちフェスティバル報告

山谷 澄

毎年11月23日の勤労感謝の日に長町研修館で「ながまちふれあいフェスティバル」が開かれる。今年のキャッチフレーズは「みんなが主役 ころとこころ笑顔でつなごう ながまちフェスタ」というのであった。公募し採用された人は開会式で表彰される。夏頃から何回も運営委員会が開かれて、全体行事、団体別企画の確認、部屋割りおよび模擬店、備品等の確認など、また会場の設営をどうやるか、参加団体の駐車をどうするかなどを話し合った。

YMCAもパネル、机を割り当てられて、YMCAを紹介するポスターや写真などを展示し、チラシ、パンフレットを並べることになっている。フェスティバル開催のチラシ配布をYMCAは180枚割り当てられて、なんとか片づけた。前日に飾り付けと展示品を並べた。

当日は、自家用車は乗り入れできないので、決められた場所に駐車許可証を見せて停めるのである。終了までは動かさない。開会式に出て、コーラスやお琴の演奏をきく。舞踊や演舞などもあるのだが、いろいろと尋ねられることがあるのでYMCAの持ち場にはいないといけない。以前YMCA会館があった頃のことについて、主事が誰で、職員が誰でと思い出を語っていく人もある。現在はどこにあってどんなことをやっているのかと聞く人もある。YMCAのPRの時間であり、場所でもある。そうやってコミュニケーションを交して前向きに進んでいきたいと思う。YMCAのまたとない宣伝の場となるフェスティバルであった。